

5 次世代を見据えた幅広い施策の推進

これまでの取組から一步踏み込んだモデル事業や、環境に配慮した事業運営を実施するなど、CSR※（企業の社会的責任）の視点にも立って、幅広い施策を推進していきます。

（1）水道文化の継承

蛇口から直接水を飲むという日本が誇る水道文化を次世代に継承するため、これまでの取組から一步踏み込んだ貯水槽水道対策の一環として、公立小学校400校を対象に、水飲栓の直結給水化モデル事業を推進します。さらに、次世代を担う小学生の水道に対する理解を深めるため、劇などを取り入れた、わかりやすく、親しみやすい授業を実施します。

- ①公立小学校の水飲栓直結給水化モデル事業（再掲：35ページを参照）
- ②水道キャラバン（再掲：36ページを参照）

（2）地球環境の重視

① 多様な主体との連携による森づくり

水道水源林を保護・育成するため、「第10次水道水源林管理計画」に基づき、人工林の健全な育成や、シカ被害対策などの取組を推進しています。また、荒廃した民有人工林を再生するとともに、水道事業における森林保全の重要性を理解していただくため、平成14年7月に多摩川水源森林隊を設立し、ボランティア主体の保全活動と、住民参加による学習活動を実施しています。

今後、ボランティアやNPO等との連携・協働を深め、多様な主体による森づくりを進めていきます。



▲ボランティアによる枝打作業
（多摩川水源森林隊）

効果

水源地保全が促進されるとともに、多様な主体との連携を通じて、森林保全の重要性に対する理解がより一層醸成されます。

	19年度	20年度	21年度
年次計画			
順次実施			

※ CSR (Corporate Social Responsibility)

企業が、社会的・環境的課題などを自発的に経営戦略、経営活動の中核に取り込み、顧客、従業員、地域社会、行政などの様々な主体と協働しながら、持続可能な社会に貢献する活動

② 環境施策の推進

私たちの生活に欠かせない水を育む地球環境を守るため、水道局では水源林の保全など様々な取組を行っています。

引き続き、より一層環境に配慮した事業運営を推進するため、「東京都水道局環境計画」に基づき、実効性のある環境施策を実施していきます。

主な取組

- ・ 水道水源林の保全
- ・ 太陽光発電設備の整備
- ・ 小水力発電※設備の整備 など

効果

環境負荷の低減を図ることができます。

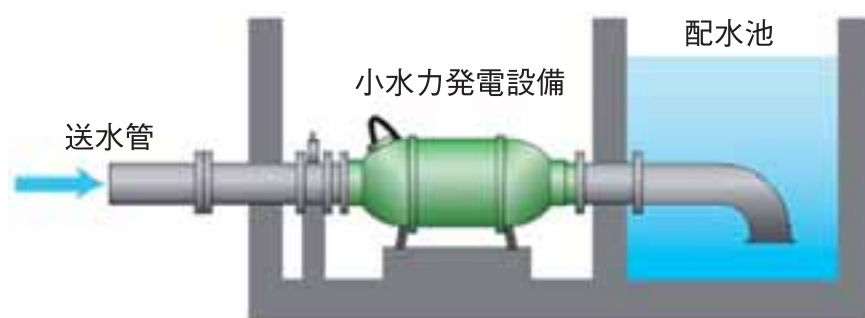


▲水道水源林



▲太陽光発電設備（朝霞浄水場）

小水力発電設備（イメージ）



年次計画	19年度	20年度	21年度
	順次実施		

※ 小水力発電

水道管の中の水流や水路の落差を利用して発電する小規模な水力発電

(3) 国内外の水道界への貢献

水道局は、世界有数の水道事業体であり、技術協力などを通じて国内外の水道界への積極的な貢献に努めています。

今後も、大学や民間企業と連携した調査・研究や技術開発を一層推進していきます。

さらに、他水道事業体等との連携による研修や、海外技術者に対する研修等を推進し、技術・ノウハウを積極的に国内外へと発信していきます。

効果

水道技術・ノウハウの発信により、幅広く水道界へ貢献することができます。



▲海外研修生の受入れ（左：アジア大都市ネットワーク21※、右：JICA集団研修）▲



▲ナノ（NF）膜による浄水処理の共同研究

	19年度	20年度	21年度
年次計画	共同研究・技術開発		
	順次実施		
	連携した研修の実施		
	順次実施		

※ アジア大都市ネットワーク21

アジアの首都及び大都市が新技術開発、環境対策、産業振興などの共通の課題に取り組むため、共同して事業を推進し、その成果をアジア地域の繁栄と発展につなげていこうという、国際的ネットワーク